

学会発表

- 1) 東 滋：アカキツネザルの個体群動態，第24回日本アフリカ学会学術大会。
- 2) 東 滋，足沢貞成，綿貫 豊，中山裕理，岡野美佐夫，増井憲一，森 治，和田 久：下北半島西北域のニホンザル個体群の変動と生息環境の変化，第3回日本霊長類学会大会，霊長類研究 3(2):175。

サル類保健飼育管理施設

松林清明(施設長・兼)・後藤俊二・鈴木樹理
松林伸子¹⁾

61年度にスタートした「サル類の飼育管理および使用に関する指針」は，実施2年目を迎え，特殊実験の申請など各手続きもスムーズに行われるようになり，順調に定着に向かっていているといえよう。定期巡回点検などサル委員会・サル施設の負担は大きい，研究の灯を守るために自律努力を続けなければならない。他大学の医学部等でも動物実験の倫理をめぐる論議が盛んになってきているが，早い時期にガイドラインを策定した霊長研の実施経過は注目されている。今後も襟を正して遵守していく必要がある。

施設を中心とした研究所のサルの年度末保有総頭数が800頭を越えた。この理由は出産数の増加と，実験殺以外の死亡数の減少である(動態表参照)。共に好ましい現象なのではあるが，予算据え置きのままに飼育頭数だけが增加するのは，運営上大きな困難を招き，決して楽観できる問題ではない。供給頭数を増やすことが当然考えられるが，研究者側の処理能力の限度もあり，供給頭数だけで調整することがどこまで可能か見極めは難しい。加えてガイドラインの規定によるケージ更新で個室ケージサイズが大きくなったため，室内収容能力が十数パーセント落ちた。つまり所内のサルの流れに滞りが生じているということである。

1) 教務職員

自家繁殖態勢の整備は長い間の努力が漸く実を結ぼうとしているもので，多様な研究需要に対応し，また野生サルを保護するためにも守っていかなければならないシステムである。これと健全な施設運営を両立させるにはどのような方策を採用すべきか，発想の大胆な転換が必要な時期にさしかかっているのかも知れない。

人事面では，調理室を担当してきた小形敬太郎が退職し，高橋末年技官が調理担当に回った。代わりに飼育補助を行う技能補佐員逸見幸子が採用された。また任期満了に伴う施設長選挙が行われ，松林清明助教授が再選された。65年3月までの任期となる。

研究概要

1) サル類の繁殖に関する研究

松林清明

チンパンジー精液の凍結保存法の検討とこれによる広域人工授精システムの開発を行っている。

2) 実験動物としてのサルの開発の研究

松林清明

前年度に実施したアンガウル島調査の継続として，同島のカニクイザル8頭を導入し，飼育法・繁殖法の検討を行っている。

3) サル類の寄生虫に関する研究

後藤俊二

野外生活のニホンザルを対象に，消化管内寄生虫相の地域差等について調べている。また，飼育下における寄生虫症の臨床病理学的研究を進めている。

4) サル類の成長の生理学的および形態学的研究

鈴木樹理

各種サル類の成長を，血中各種ホルモン・酵素などの定量並びに生体計測によって解析した。また血中各種ホルモン・酵素の日内変動を明らかにするために，ベスト着用カニューレーション法による連続採血手技の検討を行い，ほぼこの手段を確立した。

5) サル類疾病の病理学的研究

鈴木樹理

本研究所および野外で死亡したサル類について主に，死亡率の高いと思われる出生直後から幼若齢までの死亡例を中心に，病理学的検索を行い，そのおもな原因および年齢による疾病傾向および

各種疾病の病理形態の解明を行った。

論文

- 1) Ichikawa, T., Minamoto, N., Kinjo, T., Matsubayashi, N., Matsubayashi, K. and Narama, I. (1987): A serological survey of Simian 40 in monkeys. Microbiol. Immunol. 31(10): 1001-1008.
- 2) Matsumoto, Y., Yamada, M., Tegoshi, T., Yoshida, Y., Gotoh, S., Suzuki, J. and Matsubayashi, K. (1987): Pneumocystis infection in macaque monkeys: *Macaca fuscata fuscata* and *Macaca fascicularis*. Parasitol. Res. 73: 324-327.
- 3) Smith, D.G., Lorey, F.W., Suzuki, J. and Abe, M. (1987): Effect of outbreeding on weight and growth rate of captive infant rhesus macaques. Zoo Biology 6 (3): 201-212.

報告・その他

- 1) 松林清明 (1987): アジアの2霊長類施設。霊長類研究 3: 68-73.
- 2) 松林清明 (1987): アンガウル島のカニクイザル, モンキー 213, 214: 22-29.
- 3) Matsubayashi, K., Gotoh, S., Suzuki, J., and Nozawa, K. (1987): Reports on the crab-eating monkey in Angaur. I. Circumstances and morphology. Kyoto University Overseas Research Report of studies on Asian Non-Human Primates 6: 81-89.
- 4) Gotoh, S., Matsubayashi, K. and Nozawa, K. (1987): Reports on the crab-eating monkey in Angaur. II. Result of clinical examination. Kyoto University Overseas Research Report of studies on Asian Non-Human Primates 6: 91-95.
- 5) Kawamoto, Y., Nozawa, K., Matsubayashi, K. and Gotoh, S. (1987): Reports on the crab-eating monkey in Angaur. III. Genetic variation. Kyoto University Overseas Research Report of studies on Asian Non-Human Primates 6: 97-102.
- 6) 横田 明・峰澤 満・中村 伸・金井塚務・

後藤俊二・馬場駿吉 (1987): ニホンザル宮島群にみられたスギ花粉症について。霊長類研究 3: 112-118.

学会発表

- 1) 松林清明・後藤俊二・鈴木樹理・野澤 謙 (1987): アンガウル島カニクイザル調査報告。I. 現況・形態。第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2): 131.
- 2) 後藤俊二・松林清明・野澤 謙 (1987): アンガウル島カニクイザル調査報告。II. 臨床検査報告。第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2): 131.
- 3) 川本 芳・野澤 謙・松林清明・後藤俊二 (1987): アンガウル島カニクイザル調査報告。II. 遺伝的変異。第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2): 132.
- 4) 横田 明・中村 伸・後藤俊二・峰澤 満・金井塚務 (1987): ニホンザルのスギ花粉症に関する研究。第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3(2): 140.
- 5) 千種雄一・塩飽邦憲・角坂照貴・金子清俊・後藤俊二 (1987): サル糞線虫自由生活世代の発育における温度・糞便希釈・虫体密度の影響。第56回日本寄生虫学会大会, 寄生虫学雑誌36増刊号: 82.

サル類動態表（昭和63年3月末日）

区 分 種 名	導 入			出 産	死 亡							
	校 費	科 研 費 等	寄 附		実 験 殺	外 傷 死	術 後 不 良 等	呼 吸 器 系 疾 患	消 化 器 系 疾 患	泌 尿 器 系 疾 患	生 殖 器 系 疾 患	不 明 ・ そ の 他
コ モ ン ツ パ イ				4								
ワ オ キ ツ ネ ザ ル				1						1		
オ オ ガ ラ ゴ				7		2		2				
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン				2					1			
ヨ ザ ル				1	1							
フ サ オ マ キ ザ ル			2	1	1							
ミ ド リ ザ ル				1	1							
ニ ホ ン ザ ル			16	62	44		5	3	5			4
ヤ ク ニ ホ ン ザ ル												1
ア カ ゲ ザ ル				42	14	1	2		3		1	3
タ イ ワ ン ザ ル				4	1	1						
カ ニ ク イ ザ ル	5	1	3	10	6				1			1
ボ ン ネ ッ ト ザ ル				1	1							
ベ ニ ガ オ ザ ル									1			
セ レ ベ ス マ カ ク												1
マ ン ト ヒ ヒ		7		2	6				1			1
小 計	5	8	21			4	7	5	12	1	1	11
合 計		34		137	74				41			

1) 増加総頭数－減少総頭数＝差引増加頭数
 171 - 115 = 56(増加)

飼 育 頭 数（昭和63年3月末日）

種 名	頭 数	種 名	頭 数
コ モ ン ツ パ イ	13	ア カ ゲ ザ ル	226
ワ オ キ ツ ネ ザ ル	5	タ イ ワ ン ザ ル	17
オ オ ガ ラ ゴ	4	ブ タ オ ザ ル	4
コ モ ン マ ー モ セ ッ ト	5	ベ ニ ガ オ ザ ル	4
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン	15	ボ ン ネ ッ ト ザ ル	16
ヨ ザ ル	10	カ ニ ク イ ザ ル	45
リ ス ザ ル	4	ア ッ サ ム ザ ル	3
ノ ド シ ロ オ マ キ ザ ル	1	ニホンザル × ヤクニホンザル	1
フ サ オ マ キ ザ ル	8	セ レ ベ ス マ カ ク	3
チュウベイクモザル	1	マ ン ト ヒ ヒ	9
ケ ナ ガ ク モ ザ ル	1	シ ロ テ テ ナ ガ ザ ル	2
ミ ド リ ザ ル	6	ア ジ ル テ ナ ガ ザ ル	2
パ タ ス ザ ル	2	オ ラ ン ウ ー タ ン	1
ミドリザル × パタスザル	2	チ ン パ ン シ ー	10
ニ ホ ン ザ ル	407		
ヤ ク ニ ホ ン ザ ル	13	合 計	840